



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成27年度 きこえとことばの基本研修会



第5回 「補聴器・人工内耳について」

11月5日(水)、第5回きこえとことばの基本研修会が行われ、森山弘和教諭が「補聴器のしくみ」や「人工内耳について」の話をしました。



人工内耳について

<手術後、すぐに聞こえるようになる？>

- ・すぐに聞こえるようになるわけではない。
- ・医療、療育、家庭、学校でのリハビリや訓練、学習によって聞こえ方が向上する。ただし、きこえには限界がある。

↓このために・・

一人ひとりのきこえの状態をよく把握しておくことが大切になる

<どんな聞こえ方になる？>

- ・きこえの程度、変化、向上に個人差はあるが、あまり明瞭には聞こえていない。

<学校生活において、注意すべきことは？>

- ・術部をぶついたり、殴られたりしないようにする。
(再手術が必要となるため)
- ※柔道やサッカーは、避けた方がよい

ふつうのきこえと、人工内耳のきこえのシュミレーションを、聞き比べることができました。



<参加者の感想>

- 新しい補聴器のシステムについて学べてよかった。子どもが、聞き取りやすい環境について、工夫したり、いろいろなシステムを活用したりできるようにしていきたい。
- きこえがいいかどうかは関係なく、手話など視覚的に理解できるものも併せてコミュニケーションを取り、子どもの思考をさらに深めていく必要があると感じた。

人工内耳・補聴器をよく確認しよう

○操作方法は？

特に電池が切れそうな時、どのように表示されるのかを知っておく。

○破損はないか？

○マイクカバーの汚れはないか？

○半年に一回、定期通院をしているか？

子ども達とかかわる時に大切なこと

聞こえにくさのある子ども達は、よく分からない時に「分からない」と言い出すことが難しい。分からなくても、「分かった」と言ってしまうことが多い。



子どもの「分からない」を見逃さないために・・

子どもが本当に「分かった」と言えるために・・

★子どもの訴えに耳を傾ける。

★どう聞こえているのかを意識する。

★様々な情報補償手段(イラスト、板書など)を使う。